

# 岡山醫學會彙報

## 岡山醫學會通常會

同會は本月二十七日午後三時より岡山醫科大學附屬醫院臨牀講義室に於て開會す藤田會長開會を報し直ちに左の講演に移る。

第一席 「コレラ」菌の新鑑別培養基に就て

牧野 真人君

余は豆乳を利用して培養基を製作しこれに各種の細菌を培養せしに「コレラ」菌の發育殊に著しく球菌の發育防止せらるるを發見し之を「コレラ」菌の鑑別培養基に應用し遂に其目的を貫徹せり其培養基は次の如し

三%中性寒天 一〇〇〇・〇 ccm

但し普通寒天培養基の如く肉汁並に「ペプトン」を含有せず只單に三%の割合に寒天を水中に溶解せしものなり。

豆乳(比重一〇一五—一〇二五) 三〇〇・〇 ccm  
十%の曹達水 一〇〇・〇 ccm  
「フクシン」の飽和 三・〇—四・〇 ccm  
「アルコール」溶液 二〇〇—三〇〇 ccm  
十%亞硫酸曹達水 二〇〇—三〇〇 ccm  
上記の培養基に「コレラ」菌を培養するに十八時間—二十時間の後深紅色、圓形の「コロニー」を生し少しく突隆せり其周縁は銳利に境界せられ、直徑一・五—二・五 mm を算す。  
其赤色「コロニー」の周圍には更に白色にして稍透明なる暈或は淡赤色の暈を形成し一見して「コレラコロニー」なることを明知するを得。  
糞便中の普通大腸菌は本培養基に於ては其發育微弱にして其「コロニー」の大きたるや「コレラ」菌の「コロニー」の大きさの四分の一以下に止る而して其色は白色なり。  
球菌は本培養基に於ては二十四時間—四十八時間にて殆其發育を見ず。  
以上述べたるが如く本培養基は其製造極めて簡單且其原料は低廉豊富なり而して「コレラ」菌の鑑別頗る容易なるを以て他の鑑別培養に優ること數等なりと信す(自抄)

## 第二席 自家考案にかゝる腰髄麻酔用穿刺針

供覽

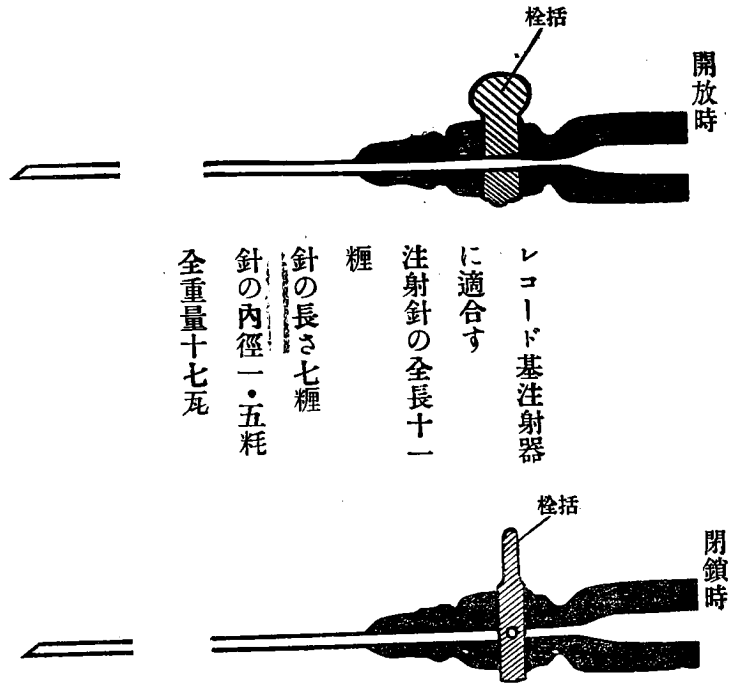
産婦人科教室 秋 本 運 晃 君

腰髄麻酔の應用が漸次擴張しつつあることは諸家の等しく認むる所なり殊に我が婦人科手術の殆ど凡ては本麻酔法によりて行はれ全身麻酔は只補助麻酔として應用せらる。而して本麻酔法に使用する腰髄穿刺針として吾人を満足せしむる者を見ず。現時最多く使用されつつある穿刺針中最簡單なるは普通の注射針を長くしたる者なり(實物供覽)又「マンドリン」を挿入したるまゝ使用せられ腰髄腔内に針の穿入せし後「マンドリン」を抜き腰髄液を出す者もあり(實物供覽)。

最近私は括栓を注射針の基に取り附けたる者を考案せり即ち該穿刺針により腰髄液を採り此液に鹽酸「トロバコカイン」を溶かし此の溶液を腰髄腔内に注入する方法により麻酔を用はんとする時は本針は括栓を利用することにより便利なり即ち最初穿刺により注射器中に採りし腰髄液を、鹽酸「トロバコカイン」粉末を豫め入れたる「ジャーレ」中に移さんとして注射器を穿刺針より取りはづ

すべし。此時穿刺針の基にある括栓を閉ざることにより腰髄液の無益なる損失を絶対に防止し得。括栓なき針を使用する時は此時指頭或は他の者にて注射針の基を壓迫し腰髄液の針より洩れるを防がざる可らず従ふて傳染の危険を伴ふ殊に指頭を用ふる時には介補者を要し傳染の危険も亦大なり。然るに本針は括栓を利用することにより此の介補者を節約し得ると同時に傳染の危険を絶対に防止し得。豫め作られたる鹽酸「トロバコカイン」溶液を用ひ腰髄麻酔を用はんとする時も本針を應用する方が便利なる可し。要するに本針の特長は括栓を利用し(一)介補者を節約し同時に(二)傳染の危険を絶対に防止し得るにあり。尙ほ本針の缺點は鹽酸「トロバコカイン」溶液を全部腰髄腔内に注入し得ざることなり。現時我が教室にて使用せる者は約〇・二ㄲ遺残す而して如何なる注射針を使用するも絶対に此の缺點を防ぐことは餘程の難事なるべし。今鹽酸「トロバコカイン」溶液五ㄲを使用せば〇・二ㄲは全量の二十五分の一にして實際麻酔の効果に大なる影響を認めず。我が教室に於て既往百數十例に使用したるも敢て不便を感じしことなし。

余は本針を以て理想的完全なる者なりと主張するに非らず今後完全なる者の考案せらるゝに當り一参考品となるを得ば幸甚の至なり。  
 右終りて閉會したるは午後四時なり。



開放時

閉鎖時

### 岡山醫學會役員會

去月二十九日午後一時より岡山醫科大學學長室に於て役員會を開き大正十一年度の本會豫算を議了し午後二時散會したり當日の出席者は左の如し

- 藤田會長、上坂副會長、麻植、寛、好本、田中、田村、中川、村松、藤原、舟岡、淺羽、齋藤、白坂の各評議員